



**AASP**

*ASIAN ASSOCIATION OF SCHOOLS OF PHARMACY*

---

アジア薬科大学協会（AASP）  
第3回薬学部長フォーラム 2014

開 催 趣 意 書

主 催 団 体

薬学教育協議会	代表理事	望月	正隆
北里大学	薬学部長	伊藤	智夫
慶應義塾大学	常任理事	増野	匡彦
京都薬科大学	学 長	乾	賢一

**開催趣意書**  
**アジア薬科大学協会 (AASP)**  
**第3回薬学部長フォーラム 2014**  
**2014年6月28日-29日**

アジア薬科大学協会 Asian Association of Schools of Pharmacy(以下 AASP)は 2001 年 4 月に設立されました。その使命は、1) アジアの医療の改善のため薬学教育および研究の質の向上に積極的にリーダーシップを発揮すること、2) AASP 会員大学のコアカリキュラムと教育内容を調和させることであります。

AASP はアジアの会員校同士の相互交流を通し、薬学教育における意見や企画の交換、および、研究の相互協力を促進するための場を提供します。AASP の主な活動の一つは、2004 年以来、隔年に開催される教育・実務実習・科学分野の AASP カンファレンスであり、もう一つは薬学部長フォーラムであります。後者は、薬学部長、教員、教育機関が直面している薬学教育の問題に的を絞ります。AASP カンファレンスと薬学部長フォーラムは、交互に隔年で開催されており、第3回薬学部長フォーラムは、2014年6月28日-29日に東京で開催されます。テーマは「アジアの地域ごとに見た薬学教育の調和」で、アジアの国々から著名な演者を招聘し、情報交換を行います。

参加者は日本を含むアジアの国々から計 100 - 150 名を見込んでおります。特記すべきプログラムは以下のとおりです。1) ASEAN10 各国の薬学分野の調和に向けた各国の準備状況、2) 東アジア地域(中国、日本、韓国、台湾)、オーストラレーシア(旧名称オセアニア; オーストラリア、ニュージーランドほか)、および南アジア地域(インド、パキスタンほか)の地域における薬学教育カリキュラムの展開状況、3) 日本の新しい薬学教育の内容と評価。

薬学部長フォーラムは、また、アジアの異なる薬科大学・薬学部教員間の相互交流とネットワーク作りに貴重な機会を提供しています。多数の参加者がありますよう関係各位に格別のご配慮をお願いいたします。

2013年10月25日

第3回 AASP 薬学部長フォーラム

主催 AASP、薬学教育協議会・北里大学・慶應義塾大学・京都薬科大学  
組織委員会

委員長 伊藤智夫(北里大学薬学部長・教授)

副委員長 乾賢一(京都薬科大学学長)、増野匡彦(慶應義塾大学常任理事・教授)

委員 石川さと子(慶應義塾大学)、大谷壽一(慶應義塾大学)、

掛見正郎(大阪薬科大学)、菅家甫子(AASP)、三田智文(東京大学)、

須田晃治(薬学教育協議会)、富田基郎(薬学教育協議会)、

堀江利治(帝京平成大学)、平塚明(東京薬科大学)、村山純一郎(昭和大学)、

望月正隆(薬学教育協議会) (五十音順)

## 第3回 AASP 薬学部長フォーラム概要

テーマ： アジアの地域ごとに見た薬学教育の調和

期 日： 2014年6月28日-29日 各日 9:30 - 17:00

会 場： 慶應義塾大学薬学部、東京都港区芝公園 1-5-30

### プログラム

#### 第1日目：6月28日(土)

開会の辞

AASP 会長挨拶

来賓挨拶

### シンポジウム

#### 1. ASEAN10 か国の調和と薬学教育

##### 1) ASEAN で目指す調和の全体像 (1 演者)

##### i) 「医薬品等の規制と制度」

##### ① 医薬品

(薬品承認、GMP 点検、生物学的同等性、市場調査に焦点を当てて)

##### ② 健康サプリメント

##### ③ 化粧品

##### ii) 「人材の育成と ASEAN 相互間の専門家認証」

(能力・資質・薬剤師資格を含む人的資源、相互認識の調和)

##### 2) ASEAN 各国の薬学教育の取り組み (各国 1 演者)

タイ、フィリピン、インドネシア、マレーシア、シンガポールからの報告

ランチタイム：大学ポスター展示

#### 2. 東アジア地域、オーストラレーシア、南アジア地域における薬学カリキュラムの現状

中国、韓国、台湾、オーストラリア(含ニュージーランド)、インドからの報告

(各国 1 演者)

懇親会

## 第2日目：6月29日(日)

### 3. 日本の新しい薬学教育の内容と評価

- 1) 6年制薬学教育の現状とその評価
- 2) 薬学教育モデル・コアカリキュラムの見直しについて
- 3) 共用試験の成果と評価 (CBT と OSCE について)
- 4) 薬学教育の評価と認証 (薬学教育評価機構の初めての評価について)
- 5) 創薬研究者養成教育(4年制と6年制)

ランチタイム：ポスター展示とディスカッション

### 4. まとめ

- 1) 講演者との個別質疑応答・意見交換  
質問者が自由にテーブル間を移動しながら質問をしていく形式
- 2) 全体討論

閉会の辞

---

### 関連プログラム (オプション)

- 6月27日(金) Daiichi-Sankyo くすりミュージアム見学会 東京都中央区日本橋  
6月30日(月) ツムラ漢方記念館見学会 茨城県稲敷郡阿見町

### 大学薬学部ポスター募集

各大学が自慢するカリキュラム、行事、学生活動等をポスターにして展示してください。(1校1枚)  
掲示板の大きさは後日通知します。配布資料を載せる机の用意もあります。

---

以上